

令和7年度 北海道上磯高等学校 自己評価結果

令和7年12月17日(水)
令和8年1月19日(月)

各質問項目を読んで、評価欄A～Dのどれかに○印を付けてください。
個人ではなく学校としての運営や取り組みへの自己評価をお願いします。

回答数16
一部の設問に無
回答あり

1 教育活動について

ここでの各評価は、A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する です。

※ 評価欄の数字は、今年度の評価を5点法(A=5点、B=3.75点、C=2.5点、D=1.25点)に換算し、表記した数値です。

領域	対象	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	数値目標等	A	B	C	D	評価数値	昨年度	改善方策
教育活動	学習指導	1 学習意欲の向上	・観点別評価、新カリキュラムを検証するとともに、校外へ向けた学習成果発表の場を設定し、学習意欲を向上させる取組を実施できたか。	○校外へ向けた学習成果発表会の場を教科、探究の時間を含めて各学年で1回以上設定。	0	12	3	0	3.5	3.8	○校外へ向けた発信の機会は実践できずにいるため、具体的な計画として発表会を取り入れた年間計画を学年と連携の上で作成、実践する。
		2 ICT活用の促進	・全教員が1人1台端末を有効に活用する授業実践を行うとともに、教科ごとの効果的な活用について研究を進めることができたか。	○ICTに関する研修会を年間4回以上実施。	1	12	2	0	3.7	4.2	○ICT機器の活用に向けた知識伝達の研修会を行っているが、実践が不足していると感じる。校内での実践研修会など、授業研究の形での実施を進める。
	生徒指導	1 生徒会活動の充実	・生徒が主体的に生徒会活動に取り組むための組織・体制作りを、生徒が自ら考えた生徒会行事を実践・持続する指導を行えたか。	○年2回のリーダー研修会を実施し、月1回生徒会だよりを発行し、情報発信に努める。	2	8	5	0	3.5	3.3	○学校行事では、学年ごとの活動に加え、生徒全体での活動になる手立てを講じる。また、行事以外の委員会活動や部局活動の主体的な活動を促す指導を継続して行う。
		2 生徒・保護者等との生徒指導の在り方共有	・本校の生徒指導に関する方針・在り方を、生徒、保護者等と共有しよりよい生徒指導体制を築くための情報発信を十分に行えたか。また、意向把握の仕組み作りが十分に行うことができたか。	○生徒指導部だよりの隔月発行と生徒・保護者等の意向調査のためのアンケートを実施する。	2	10	3	0	3.7	3.4	○学校からの情報発信だけでなく、生徒指導に関する方針在り方について、生徒・保護者等の考えを受け取ったり、意見を交流したりする機会を創出する。
	進路指導	1 進路実現に向けた意欲の喚起	・生徒一人ひとりが「総合的な探究の時間」や「LHR」等での進路学習の機会を通じて自己理解や自分の将来への生き方への関心を深め、主体的に進路選択について考える機会となる取り組みを実践することができたか。	○職業体験、就職ガイダンス等の説明会を各学年で1回以上実施する。 ○就職希望者は企業説明会に1、2学年は1回、3学年は管内企業説明会を含め2回は参加させる。	6	7	2	0	4.1	3.9	○事前指導により生徒の説明会当日の取り組み姿勢に一定の効果が見られた。今後は事前指導に加え、事後指導にも注力し個々の進路活動の推進に繋げたい。
		2 学年、保護者等への情報発信	・生徒の進路希望を理解し、進路選択・実現のためにカウンセリング機能の充実を図り、学年団や保護者等が進路実現に向けた支援をできるよう適切な情報発信をすることができたか。	○全校生徒との進路面談を1回、各学年で保護者等説明会を1回実施。	3	12	0	0	4.0	4.1	○相談会等進路に関する保護者文書はメール送信し、確実な情報提供を行う。保護者説明会についてはアンケート等を実施しニーズに応じた内容の充実を図り、出席状況の改善を目指す。
学校運営	開かれた学校づくり	1 北斗高等支援学校との連携深化	・連絡会議を機能的なものとし、方向性の共有、早期での課題把握など、「協和」実現に向けた計画、具体的な取組をさらに実施することができたか。	○本校の行事や取組とのリンク依頼を年度当初及び途中からでも提案・実施し、策定・実施する。	2	12	2	0	3.8	3.7	○北斗高等支援学校との連携は、授業や学校行事の合同開催、両校PTA等による清溪祭協力、進路指導の連携などを充実を図った。次年度も両校の良さを生かした取り組みを継続していく。
		2 市内小中学校、地域への情報発信及び交流活動の実施	・本校からの情報発信のみならず、小中学校との共同の活動や地域行事への積極的な参加により、児童生徒との直接的な交流が図られたか。	○市内小中学校児童生徒との交流事業5以上。	0	11	5	0	3.4	3.5	○市内小中学校との交流はできなかったが、北斗市子ども連絡協議会への協力、夏祭りや防災行事への生徒参画を通じ、地域への発信は実現できた。次年度も機会を捉え充実させていく。
	組織運営	1 担当校務の平準化	・今年度教育計画の実施事項、分担者等を前期に見直し、後期に平準化に向け取り組むなど、実効性ある働き方改革を実行できたか。	○人事評価定期面談等で実効性を確認し、50%以上の実効感覚を得る。	1	4	11	0	3.0	3.3	○業務の平準化や協働体制がうまく機能できていない状況に対し、組織構造の見直し、役割の不明瞭さの見直しを図る。
		2 協働する職員集団の構築【働き方改革を意識】	・校務運営上の調整や課題解決に向け、個々の職員が主体的に取り組むとともに、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができたか。	○協働体制の有機的連携により45h/月の超過勤務者数の前年度比50%減。	1	6	8	1	3.0	3.6	○業務の平準化や協働体制を阻害する要因を全体で確認する場を設け、不要な業務の整理や、個業意識の改善、経験の差を補い合う心理的安全性の充実を図る。
	教員の資質能力向上	1 研修の充実	・学習評価や新カリ、BYOD端末活用での全体的、計画的な研修と個々の研修還元報告等を組み合わせ、職員の意識を高めることができたか。	○各種研究協議会における発表者を年間のべ2名以上。	3	10	3	0	3.8	3.9	○今年度は研究発表はなかったが、他校への講師としてのべ2名、学校訪問のべ2名が参加した。校内研修は6回実施できた。
		2 社会性の修得	・教育に関する情報のみならず、社会の動きや課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたることのできたか。	○各テーマごとのミニ発表会実施を3回以上。	1	13	2	0	3.7	4.1	○各種研修の受講奨励や教育動向に対する迅速な情報提供を通じ、教員の資質能力向上に向け今後も継続発展させていく。
学校安全	1 危機管理体制の確立	・生徒及び教職員の安全を確保するため、組織的な危機管理体制を確立し、保護者等や地域と連携しながら迅速な対応を行うことができたか。	○月に1回以上、教職員の研修や啓発を実施し、生徒の安全確保や学校の防犯・防災体制の確立に努める。	4	10	2	0	3.9	3.8	○危機管理については、注意喚起や情報提供だけでなく、自分事として捉える研修の充実を図る。	
	2 生徒の安心・安全への支援	・生徒が安心・安全な生活を送れるよう、心身の健康への配慮、いじめ防止対策、日常の困り感への対応など、保護者等や関係機関と連携し、きめ細かな支援を行うことができたか。	○心の健康や教育相談アンケート、ハイパーQ.U.、いじめ早期発見のためのアンケート等を年間8回以上実施。	6	9	1	0	4.1	4.2	○生徒の安心・安全への支援については、日常の観察や声かけを丁寧に行い、生徒の困り感の発見や対応に即時性をもって応えられる校内体制を構築する。	

2 入学者確保に向けた取組とその状況

<p>○中学校訪問 7月(校長:渡島18校)</p> <p>○中学校での学校説明会参加 6月20日浜分中、10月28日上磯中、11月13日大野中</p> <p>○情報発信 ①webの活用(Instagram、学校ホームページ)、②新聞取材・掲載(北海道新聞、北海道通信、広報ほくと、北斗市社教だより等)</p> <p>○学校説明会 ①上磯高校・北斗高等支援学校合同説明会 ②上磯高校学校説明会 ③清溪祭ブース設置</p> <p>○学校開放講座・公開授業等による学校PR及び地域連携 【学校開放講座】防災に関する学校開放講座、デートDV講座、性の教育講演会 【防災】防災マルシェ運営補助、めざせ防災マスターキッズの企画運営 【地域連携】北斗市夏祭り協力、赤い羽根共同募金街頭募金活動、ほっこれんまつり協力、高齢者の介護予防へのレクリエーション運営</p> <p>○北斗市内中高情報交換会開催(市内3高校、5中学校参加)</p>
--